

第116号

ほ ほ え み

05 04 10

こども病院の桜も満開です。皆さんにとって今年の桜の花はどう映っているのでしょうか。

所要で横浜まで車を走らせました。東名高速沿いにはこんなに桜の木が植わっていたのかと思うほどに、両側には桜が咲き誇っていました。普段、目立たない分、いかにも誇らしくその存在をアピールしているかのごときでした。

小さく可憐なピンクの花びらは私たちに、生き方を説いているかのようでした。たまたまカーラジオからは「世界に一つだけの花」が流れてきました。

そうさ僕らも 世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに
一生懸命になればいい
小さい花や大きな花
一つとして同じものはないから
NO.1 にならなくてもいい
もともと特別な Only one

< 第118回 ほほえみの会 >

新しい方2組や懐かしい顔、新任の岡田先生ら13人が集まりました。

1歳5ヶ月女の子、神経芽腫。先週入院して治療を始めたばかり。足を引きずって歩くようになり、整形外科を回ったが病気が分からず、精密検査のMRIで足の影を見つける。宮崎県に住んでおり、治療に九州大学附属病院を紹介されたが知り合いもいないので実家のある静岡のこども病院へ。レントゲンでお腹の腫瘍を見て自分の子じゃない、ありえないと思った。が、泣いていても進まないのだから治すために頑張る。宮崎の病院の小児病棟は全く普通の病棟だったがこちらはプレイルームやビデオなど子供の遊びを考えた病棟ですばらしい。

2歳5ヶ月女の子。神経芽腫。足が痛く歩けなくなり総合病院で診てもらったところ腫瘍が発覚。お腹には大きな影がある。信じられなかった。すでに4回の抗がん剤治療を終えて、末梢血幹細胞移植を行った。次に手術をする。伊豆に住んでいるが、父親が自営業なのでコアラの家に泊まりこんでいる。今後放射線治療をした場合、低身長や不妊など副作用が心配。

1歳8ヶ月男の子、急性リンパ性白血病。治療を始めたが途中で発熱があり治療中断、予定通り治療が進まないのが心配。子供は病棟にも慣れてきたが、親の方はひとつひとつのことにピリピリ、神経質になってしまう。参加者からは治療が予定通りいかないのは誰にもあることで医師の方も想定の上で治療をしているのでそんなに心配をする必要はないという話がありました。

高島先生からは、親の不安は尽きないので今の幸せを大切にというお話がありました。治療中はもちろん、治療が終わっても再発が心配、そして社会生活に不安を持ち、晩期障害も不安。そんな将来を思い悩むより今の健康を喜ぶ事が大事。また、治療をしていると父、母の力の大きさを実感するというお話もありました。元気がなくてベットに横になっていても親が来れば起き上がって遊んでいる。病気の治療は病院と親と一緒に進めたいとのことでした。

今回病気を克服した人も顔を見せてくれました。こども病院は全国の病院や治療の情報を受け入れてくれているのでありがたい。夏には子供たちのキャンプも予定している。これからも元気になった者の役割を果たして生きたいとのことでした。その夏のキャンプのお知らせを同封します。

次回 は 5月 8日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054 - 247 - 9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>